

シリーズ 私の一冊の本

環境科学研究所 岩堀恵祐 先生

滋賀の理科教材研究委員会(編)著

『やさしい日本の淡水プランクトン:図解ハンドブック』

閲覧室 2階 468.6/Sh 27 合同出版
自由閲覧室 推薦図書

この十年間、小学生や中学生、高校生を対象に環境体験実習を行ってきた。「動く」「色が変わる」が子供たちの最大の関心事であるため、顕微鏡観察は体験実習には必須の内容である。専門書や図鑑の類は多数出版されているが、初心者が相手だと、どれも『帯に短し襷に長し』の感は否めず、子供たちに適した図鑑を探していた。そんな折、本書に出会った。

本書には、鮮明なカラー写真(635点)と判りやすいイラスト(347点)で、日本の淡水に出現する動植物プランクトンが紹介されている。また、子供たちや初心者にも理解できるように、できる限り平易な言葉が使われ、専門用語にはルビまで振られている。「動くか・動かないか」で区分していく子供たちのために、系統だった分類枠を越えて、形からグループ分けするという新しい試みを取り入れられている点も有り難い。さらに、採取・観察の仕方も図示され、眺めているだけで楽しく、親しみさえ感じられる図鑑である。現場で子供たちを指導していく実践の中から生まれた本書ならではの魅力を痛感している。

しかし、書かれている内容は結構、奥が深く、専門家の活用にも十分に耐えられるほどである。211属260種のプランクトンが紹介されているが、プランクトンの入門書で、これほど多くの種類を解説したものはお目にかかったことがない。原生動物を除けば、プランクトンについて『初心者以上、専門家未満』の紹介者にも、湖沼の水質データを補完してくれる貴重な図鑑である。子供たちを指導される先生方も同じで、環境体験実習の参考になるはずである。

顕微鏡観察の座右の書として本書を推薦したい。また、本書の普及版は極めて廉価であるので、高価で専門的な図鑑を1冊置くよりも、本書を必要な部署に必要な数だけ置かれることをお勧めする。小学生から専門家まで使える本書を契機に、あなたも水環境のプランクトンワールドに足を踏み入れてみませんか。